

第1回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成24年5月31日（木）19時30分～21時10分
- 2 開催場所：庄内町余目第三公民館 ホール
- 3 出席委員：小野寺姫、池田孝一、金内淳、日向ゆき、齋藤すぎ、日野淳、小野寺博
- 4 欠席委員：なし
- 5 事務局：図書館長、主査、主任
- 6 教育委員会：庄内町社会教育課長

進行：主任

1 開会 主任

2 あいさつ

- 会1 第1回「庄内町子ども読書活動推進計画」（18時30分～19時30分）
- その後 会2 第1回「庄内町立図書館協議会」（19時30分～21時10分）
- 委員長あいさつ（会1であいさつ）

庄内町子ども読書活動推進計画も作成して2年目、教育の中で普段されていることをもう一度見直す活動であり、小学校だけでなく全体の取り組みの中で、階段をつなげていくための活動と思っている。今年立川小学校が読書で文部科学大臣賞をもらったのはうれしいことである。言葉との出会いを大切に、便利さのためにそういう機会を無くさないよう大人の責任として読書に取り組むと大きな成果につながると思う。

- 課長あいさつ（会1であいさつ）

みなさんお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。昨年震災の影響もあり、若干利用者数も減少傾向にあったが、学校、幼稚園の取り組みの中では貸出冊数が増えているので、町全体で考えれば心配はしていない。近年活字離れといわれ、本に触れる機会が少くないと言われる中で、子どもたちは変化しており、読書の推進を図っていくのがむずかしい。図書館の施設も多小不便さもありますが、できることから改善を含めてご意見をいただきたい。

3 報告事項

- (1) 平成24年度庄内町立図書館運営計画について
- (2) 平成24年度庄内町立図書館協議会年間計画について
- (3) 平成24年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
- (4) 平成24年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館年間事業計画について

《事務局説明》

- (1)～(4) 資料確認について説明

(委員長) ただいまの資料は、2月29日開催の図書館協議会において案で説明しているので、後日資料を確認ください。

4 協議事項

(1)平成 24 年度事務事業評価（庄内町立図書館事業評価H23)について

- ①図書館運営事業
- ②読書普及費(読書感想文コンクール事業・読み聞かせ事業)
- ③生涯学習推進事業費(町民大学文学部開催・絵本はともだち事業)
- ④町立図書館開館 100 周年記念事業(記念誌作成事業・落合恵子講演会事業)
- ⑤内藤秀因水彩画記念館運営事業

《事務局説明》

○(1)①～⑤まで資料の内容説明

(委員長) 今説明いただいた事務事業評価について、質問、意見をいただきたい。

《協議の内容》

(課長) 合併特例の交付金は 10 年間だが、今はたくさんもらっているが、このままずっと続くわけではなく、10 年後いきなり削減されたらやっていけないということで、町で策定した行財政改革推進計画において、歳出充当一般財源 3 億円縮減が求められていることから、この事業費評価も削減することを評価項目にしているものと考えている。例えば図書館運営費では事業目的に対する達成度は順調でないと記載しているが、貸出冊数がなぜ落ちたのか、どこに原因があるのか、大きいつかみの中でどのように考えているのかとか、委員の方からご意見を伺い評価していただけないか。

(館長) 図書館の利用者数も伸びていないという状況で私たちも考えているが、その要因も明確には出てこない。一般町民への PR 不足ということで、いろんな利用者のニーズに応えられるように、展示の仕方もお客様の目につくような場所に展示、狭いため場所がとれないけれど、カウンター、書架などさまざまな形で工夫している。利用者の声に対して、きちんと対応していく姿勢にしている。

(委員) 施設の利用状況を見ると、よその図書館へ流れていっていると思う。事業評価の計画の貸出比率の箇所、下がった数値を元に戻していくのは容易でない。毎回同じような指摘がされると職員もつらいのではと思う。ずっと利用していた方が来なくなったというパターンがどれくらいあるのか、来館者数は変わらないが、また貸出冊数も減少しているとすれば、次の手立てを考えなければいけない。

(事務局) 毎日、図書館のホールに来館いただくお客様は以前と比較し、少なくなったように思う。新聞や雑誌の種類も図書館の機能として不足していると思う。酒田・鶴岡の図書館には人気の高い雑誌などが配置されており、それを楽しみに来館する利用者がいる。ここの図書館も施設は老朽化してはいるが、特色を持って運営したいと考えている。

(館長) 新聞は全国誌が一つしかない。例えば囲碁の本とかホールで手にとるような本は少ないのではないと思う。図書館の機能としては不足しているが、例えば新刊本の貸出は、酒田や鶴岡では 3 ヶ月待ちだが、それと比べここの図書館はすぐ借りることができる。そういう点で、大きい図書館と比較しなくても、小さな図書館の利点があると思っている。

(課長) 小・中学校の学校図書館において、光を注ぐ交付金事業により本をたくさん購入され、更に庄内町学校支援地域本部事業の実施により小・中学生の読書量が増加している状況にあるものといえる。図書館利用者の減少の要因をデータを分析し、また他市町村の図書館の利用者状況を調査してみたらいいのではないか。

(事務局) 2月29日図書館協議会開催の時に、年代別にデータ分析した資料を提示し協議している。

(館長) 分館の利用者も減少している。ただ図書館には開架の本は、半分で後は閉架に保管されているので、そちらの本も利用いただきたい。

(委員長) 前回2月の図書館協議会の時に利用者の減少について分析した結果があった。今回提示された平成24年度事業評価シートについても、予算削減がからんでいるということはわかる。これまで一般利用者減少への手立てがなされればいいと思ってきたが、以前から新聞の種類が少ないと意見が出ているわけだが、できない要因な何なのか。

(事務局) 図書購入費の予算の中から、やりくりして雑誌や新聞に対応することも可能であるが、館内に雑誌等を置くスペースはなく、施設整備で工夫できる余地があれば対応していきたいと考える。

(委員) 今まで古くなった本のリサイクルについてはどうか。

(事務局) 古くなった本や貴重な本も、ひとつずつ職員が見て行く。廃棄の基準についても、規則にはあるが、酒田や鶴岡など他市町村のところも調べ参考にしたいと思う。

(委員) 廃棄する司書の資質も大事であるが、それだけで頼ってはいけけないのでは。貸出頻度にも重点を置く必要があると思う。

(委員) 以前は、書籍に利用者カードがついていて、誰と誰が見たから自分も見ると励みになったし、我々一般の目に触れることができたものである。今は個人情報になってしまい、借りた本もデータ上残らない。

(委員) 貸出した本はいつ借りてどんな本だったか、貸出が少ない本はどんどん廃棄に出すとか、購入する必要がないのもよくわかるし、余分なものを長く置く必要はないと思う。本にも貸出回数とか貸出頻度など、一度も手にとらないで廃棄される本もあり、廃棄することも単純にできるのではないか。

(事務局) 貸出回数は図書館システムで出るはずである。

(委員長) ある程度明確なデータをもとに、実際に利用者が魅力ある本はどのようにして目安となるか。長年の司書の知識だけでやっていたのが、それではおいつけなくなっていた。酒田や鶴岡の図書館と同じレベルでは無理、広くあさくていいのか、どこかは手薄でもどこかが手厚い情報を提供して、ここだけは余目の図書館でいいとか、事業をもう一度見直していく必要があると思う。

(委員) 図書館の取り組みはせいっぱいやっている。単に図書館の魅力の問題ではない。この前はインターネットの話題で占めたが、社会の中で生活に余裕がないのではと思う。庄内町の特性、職業的な分布、読書そのものに親しめる層を考えるべきである。鶴岡の文化と比較してもだめ、そのレベルでどれだけ足を運べることがあるか。文化的にそういう素質、余裕を持っている人が

多い。以前も話したが、子どもたちで、この図書館にゲームや遊びにきている人はいないし、ちゃんと勉強している。ホールへ新聞や雑誌を見に来る人が、毎日2人から3人減っただけで図書館の全体の利用状況はちがってくる。

(委員) 旧立川地域の方々は、図書館や記念館の場所を知らないと思う。松寿大学でも酒田市の美術館に視察に行くと聞いている。団体に呼びかけて記念館にきてもらおうといいのではと思う。

(委員) 記念館へ来館してもらえるように、学校に呼びかけ、クラスごとにスクールバスを使って水彩画の勉強できないだろうか。

(事務局) 図書館へ授業や体験学習で来館するときにも、記念館と図書館が併設しており、来館してほしい旨説明している。この一体となった運営も、ここの図書館の特性ではないかと思っているし、情報発信もしている。

(委員) 是非先生と一緒に記念館へきてほしいと思う。日本水彩画会の理事長までした人の絵画が季節毎に約50点も公開しているのはすごいこと。ここにきて子どもたちにすごいと感動していただきたい。庄内町に住んでいるものにとって宝物である。1年に1回そういう機会を持ってほしい。本の廃棄に関してであるが、昔からみれば考えられない。現在の図書館は蔵書冊数がいっぱいになるため、図書館では廃棄せざるを得ないと判断している。以前は図書司書4人、事務1人である程度農業関係や植物など分野を分けていた。鶴岡や酒田と比べものにならないが、図書購入費だけは減らさないでほしいと言って、限られた予算で本を吟味してきた。今は、蔵書スペースが満杯になり、本の廃棄も職員の負担になっているが、職員はがんばってくれていると思う。図書のシステムが電算化になったことにより、職員の労力が省けるという感覚で利用率が評価されると職員にとっては酷である。図書館に魅力を感じ、相談にきてよかったという達成感があればまたきてくれる。まず1対1の絆を結ぶこと、一人一人を大切にしないと人と本を結びつけられなくなってしまう。

(委員) 難しい課題であると思う。

(委員) 記念館の来館については、学校経営の中でPRさせていただきたい。それぞれの地域の図書館に特色があると思う。例えば、20代、30代は、幼稚園や小学生の保護者かなと思った時に、庄内町は子育て支援の町、農業の町と考えられるが、どんなことに興味があるのか、アンケートをとったりして利用者の声を聞き、図書館に足を向けてもらう手立てを考えるといいのではと思う。鶴岡の図書館では、インターネットで本の予約やホームページで新刊本の紹介ができる。またやまびこ号での本の巡回で地区の公民館や学校で貸出できるため本に触れる機会があり、とてもいいことだと思った。町でも限られた予算の中でできることとできないことがあると思うが、もっと図書館のことをPRしたらいいのではないか。

(事務局) インターネット予約はシステムに機能はついているが、セキュリティーの問題とかまだ実施していない状況。予約は電話一つで可能である。これからは、インターネット予約は必要だとは思っているので、今後検討していきたい。移動図書館については、図書館建設とからんで検討していく。

(委員) 30代では、子どもも中学生の年代で忙しく、土日でも図書館に行けない。娘が小学生の時には時間に余裕があったので図書館に行けた。その年代で一定の時期に行けないのは、やむを得ない。例えば、図書館にみえない方に、最近図書館にいらっやしませんねとか、新刊が入っていますとかダイレクトメールを送付すれば、また図書館に行ってみようかなと気になるのではないか。

(委員長) 顔の見える庄内町ということで、PRしていけばいいと思うし、いろんな考えがあつていい。

(2)その他

(委員長) その他で何かないですか。

(委員) 町民大学文学部の関係で、「おらほのことば」の講座はいつまでも続けられないと言っていたが、思い切って文学部を外し教養学部とかにして、一般的な家庭の講座とか文学部にとらわれずに企画してみたらどうだろうか。

(事務局) 今後検討していく予定である。

5 その他

《事務局説明》

次回開催日程：平成24年10月5日 第32回山形県図書館研究大会 南陽市

6 閉会 池田主任